「支え合う～ウクライナ人道支援」

●寒い中、温かいスープとおにぎり

2011年3月11日の晩、築地本願寺は、東日本大震災による帰宅困難者を受け入れ、温かいスープと炊き出しおにぎりを提供しました。

私は、たまたま当日、京都の本願寺から飛行機で帰りましたが、羽田空港に着陸する寸前に大震災が発生し、しばらく上空で旋回し余震がおさまるのを待っていました。到着後、空港の駐車場に駐めておいた車で、何はともあれ、大渋滞の中を築地本願寺に向かいました。

その晩、私は家に帰ることもできず、そこで一夜を過ごしていました。余震とサイレンの続く夜でした。この様子は、後に『週刊新潮』で次のように報道されました。

「築地本願寺は震災当日、緊急避難所として開放。
噂を聞きつけたサラリーマンが殺到。
寸銅鍋一杯にオニオンスープを温め、発泡スチロールの丼に入れ振舞う。
『寒いなか、これが美味しくてね』(駆けつけた電機メーカー社員)。
さらに、ホカホカのおにぎり。
足りなくなると追加の炊き出し。
同寺(築地本願寺)によると、地震直後に40人の職員総出で炊き出しの準備を行い、翌日午前中に(避難者)全員が帰った後、すぐに僧侶たちがバスに乗り込み、茨城に救援物資を持って向かった(抄出)。」

非常事態が起きたとき、困難な立場の人も、そうでない立場の人も、助け合うことを深いところで願い合っていると思いました。

●顔と顔の見える関係

アーユス仏教国際協力ネットワークという仏教NGOがあります。

仏教の慈悲の精神をもとにして、海外で活動する日本のNGOへの支援を軸として、平和と人権を大切にする様ざまな活動をしています。私は、20年近く、理事としてお手伝いをさせてもらっています。

支援先の一つに東アジアの未来の平和を願う「KOREAこどもキャンペーン」があります。

北朝鮮の洪水被害の際は、食料や医療の援助、太陽光パネル設置などの協力をしました。

物資援助は数字や形に表れますが、同NGO開催「南北コリアと日本のともだち展」は、日朝関係が厳しい中でも、日本に住む子どもたちの平壌訪問を通して顔と顔の見える関係作りが生まれています。

このように現地に行く日本スタッフもいれば、現地NGOの日本国籍以外のスタッフが日本に来ることもあり、2011年には、色々な人が東日本大震災復興のために来日してくれました。

十数年前、支援先の一つ、JIM-net(ジム ネット)(日本イラク医療支援ネットワーク、代表鎌田實)の現地スタッフ、イブラヒムさんが来日しました。その折、私の寺に数時間立ち寄り、法話会に集まった門信徒の皆さんとお話をしたり、お茶を飲んだりして過ごしました。話の中の中心となったのは、現地の子どもたちが、アメリカなどが使用した劣化ウラン弾の被害に遭っているという話でした。

想像もしていませんでしたが、こうした関わりがあると、そのあと、朝鮮半島で災害が起きたり、中東で事件が起きると、あのキムさんは、あのイブラヒムさんは、大丈夫か、元気でいるだろうかという思いが生まれます。

まったく同じニュースでも、自分の受け止め方が変わるのです。

実は、ボランティアやその他の活動で、支援に関わることは、意識の深い所に、他者のことを思う生き方を恵まれ、私の新しい生き方が成長することだと実感します。

●ウクライナ侵攻に仏教的態度で向き合う

私は普段、物事を受け止めるとき、気づかずに常識的で表層的なものの見方をしてしまいがちです。

そして、その見方で、目の前の出来事を決めつけてしまいますが、それは相手の本当の姿を見逃し、さらに自分の生き方の可能性を押さえつけていることがあるようです。

非常事態が起きたときや、新型コロナウィルス感染症の大流行や、戦闘行為が起きたとき、被災者や感染者は、いつでも、どこでも、どんな状況でも、助けられる側、癒される側の立場だという見方もあります。

もちろん、十分な支援をしなければならないのはいうまでもありません。

しかし、仏教を大切にした人生態度に生きるなら、上の立場から「してやる」と受け止めるのでなく、縁起という関係を基にして、「お互い様」と受け止めたいと思いました。

当たり前のことですが、どんな人でも、実は共に社会に貢献し助け合っていけるのです。ボランティアなどをしたことがある人は実感されているでしょうが、癒されるのは、「される立場」ばかりではありません。する側も「お役に立っている」と自分が認められ、癒されます。

築地本願寺の職員さんや、NGOに関わる人の姿から、お互い様、おかげさまと、支え合う、いのちの水平の関係を私も生きたいと思いました。

コロナ下の私たちには、自分が感染しないこと、相手に感染させないこと、それが医療現場の負担を少しでも減らす事につながると意識することが大切です。

さらに、ウクライナ侵攻という歴史的な出来事を前に、無関心になるのではなく、少しでも、関心を持って生きていくことが大切だと思いました。

こうした意識は、必ずその人の考え方や行動の仕方に影響を与えます。

これも、自利(自分の利益)と利他(他者の利益)につながる仏教的な態度の表れだと思います。

JIM-netのホームページ

※万行寺では、「ウクライナ　非暴力による人道支援募金」活動を始めました。募金が、武器などにならない支援活動を目指して、アーユス仏教ボランティア募金に集約します。

合掌

万行寺第十八世住職　釋靜芳(本多 靜芳)

※ご縁のあったあなた!　第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様･御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様･御手紙』を学びにいらっしゃいませんか?　お待ちしてます(会費はいずれも資料･茶菓代として千円です)。

「ナムの会」は一月と十二月は休会します。